

2007年3月期 決算説明

2007年5月21日

東洋合成工業株式会社

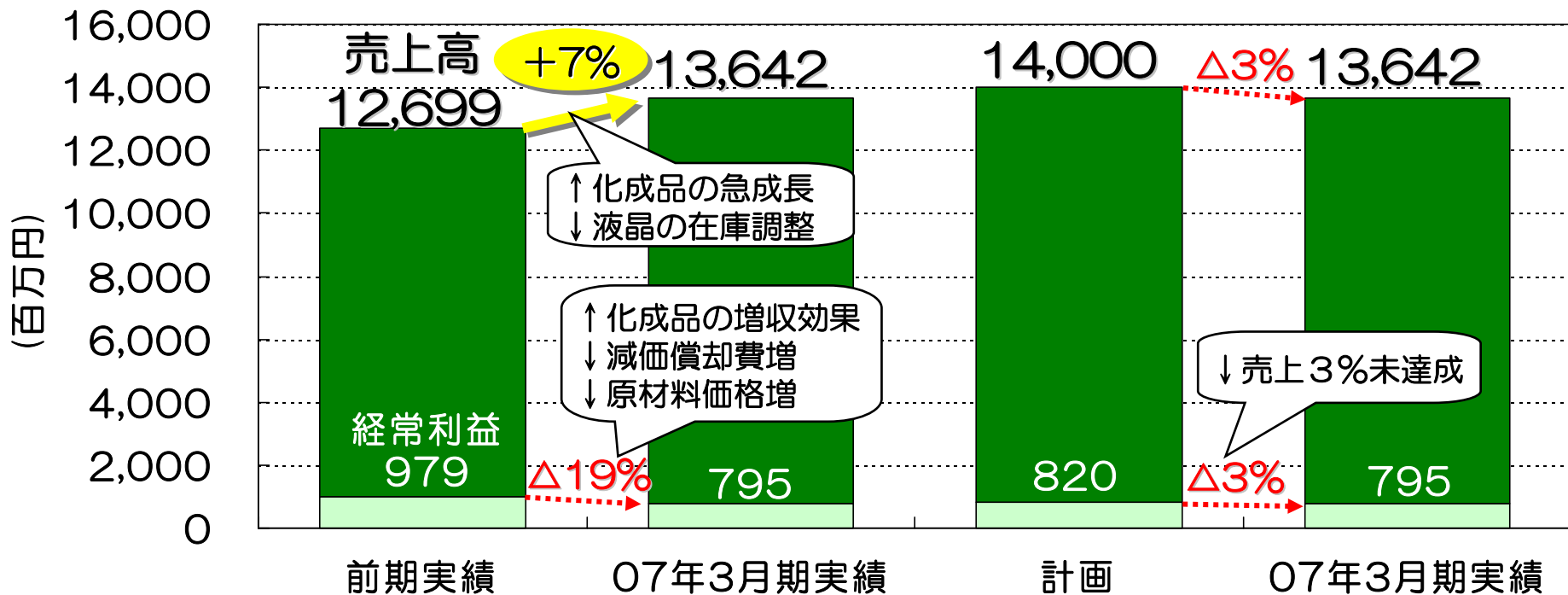
■ 目次

- | | | |
|-------------|-------|--------|
| 1. 2007年3月期 | 決算概要 | P3~17 |
| 2. 2008年3月期 | 通期見通し | P18~24 |
| 3. 今後の展望 | | P25~36 |

1. 2007年3月期 決算概要

2007年3月期のポイント

- ・ 売上高は、前年比7%増、計画比3%未達
 - ・ 液晶需要の在庫調整と価格低下
 - ・ 化成品事業(溶剤リサイクル、香料)の急成長
- ・ 経常利益は、前年比19%減、計画比3%未達
 - ・ 減価償却費増加(+5億円)と原油高による原材料費・燃料費等の増加
 - ・ 化成品事業の増収効果
 - ・ 3%売上未達

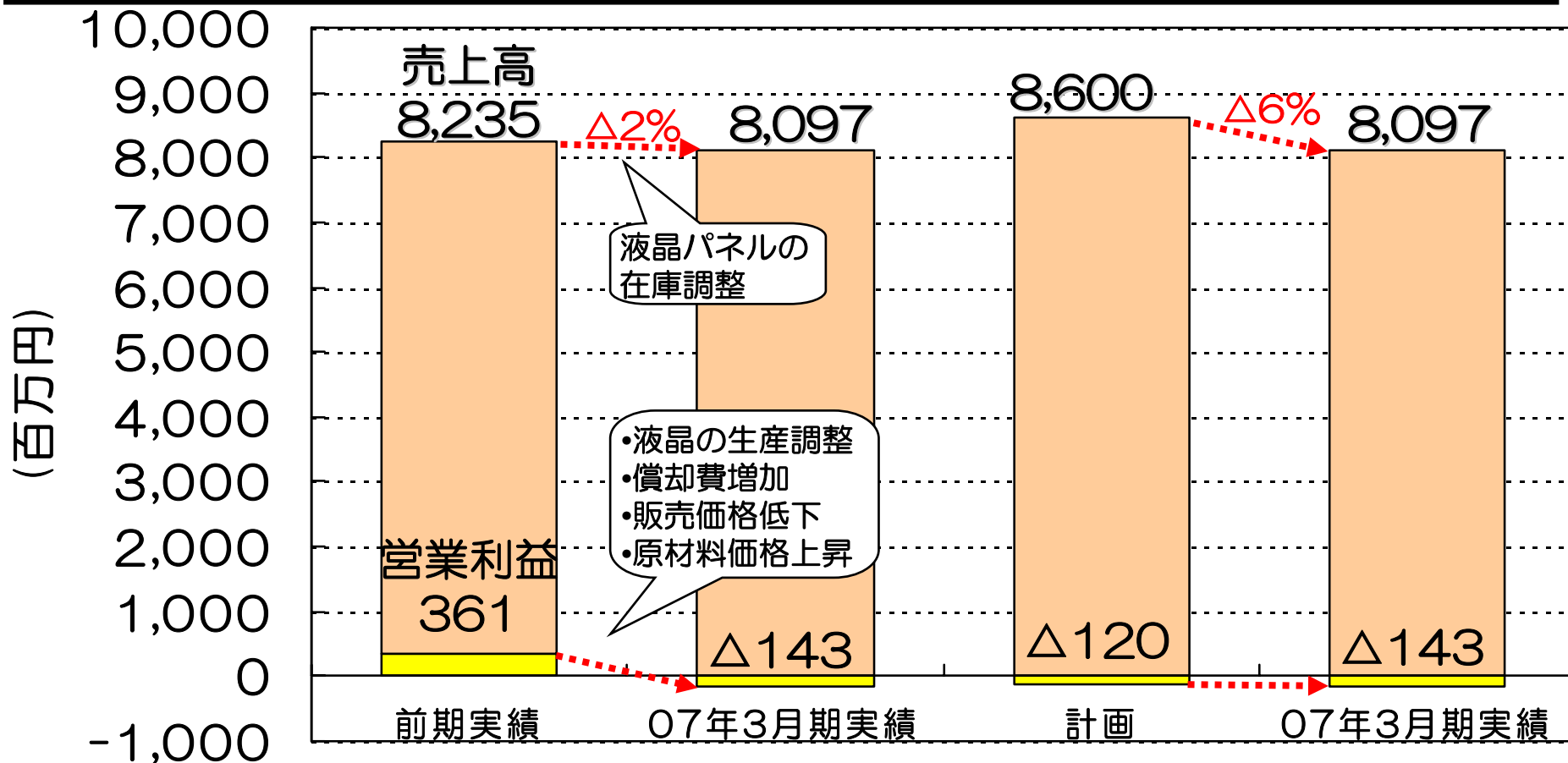


■ 全社 2007年3月期 決算概要

科目 (百万円)	2006年 3月期 実績	2007年 3月期 実績	前年比		計画	差異
			増減	%		
売上高	12,699	<u>13,642</u>	+943	+ 7%	14,000	△357
感光性材料	8,235	8,097	△137	△ 2%	8,600	△502
化成品	2,862	3,985	+1,122	+39%	3,840	+145
ロジスティック	1,601	1,559	△ 42	△ 3%	1,560	△ 1
営業利益	1,149	<u>885</u>	△264	△23%	900	△ 15
感光性材料	361	△143	△504	—	△120	△ 23
化成品	262	507	+245	+94%	530	△ 22
ロジスティック	526	520	△ 5	△ 1%	490	+ 30
経常利益	979	<u>795</u>	△183	△19%	820	△ 24
当期純利益	642	<u>428</u>	△213	△33%	470	△ 41

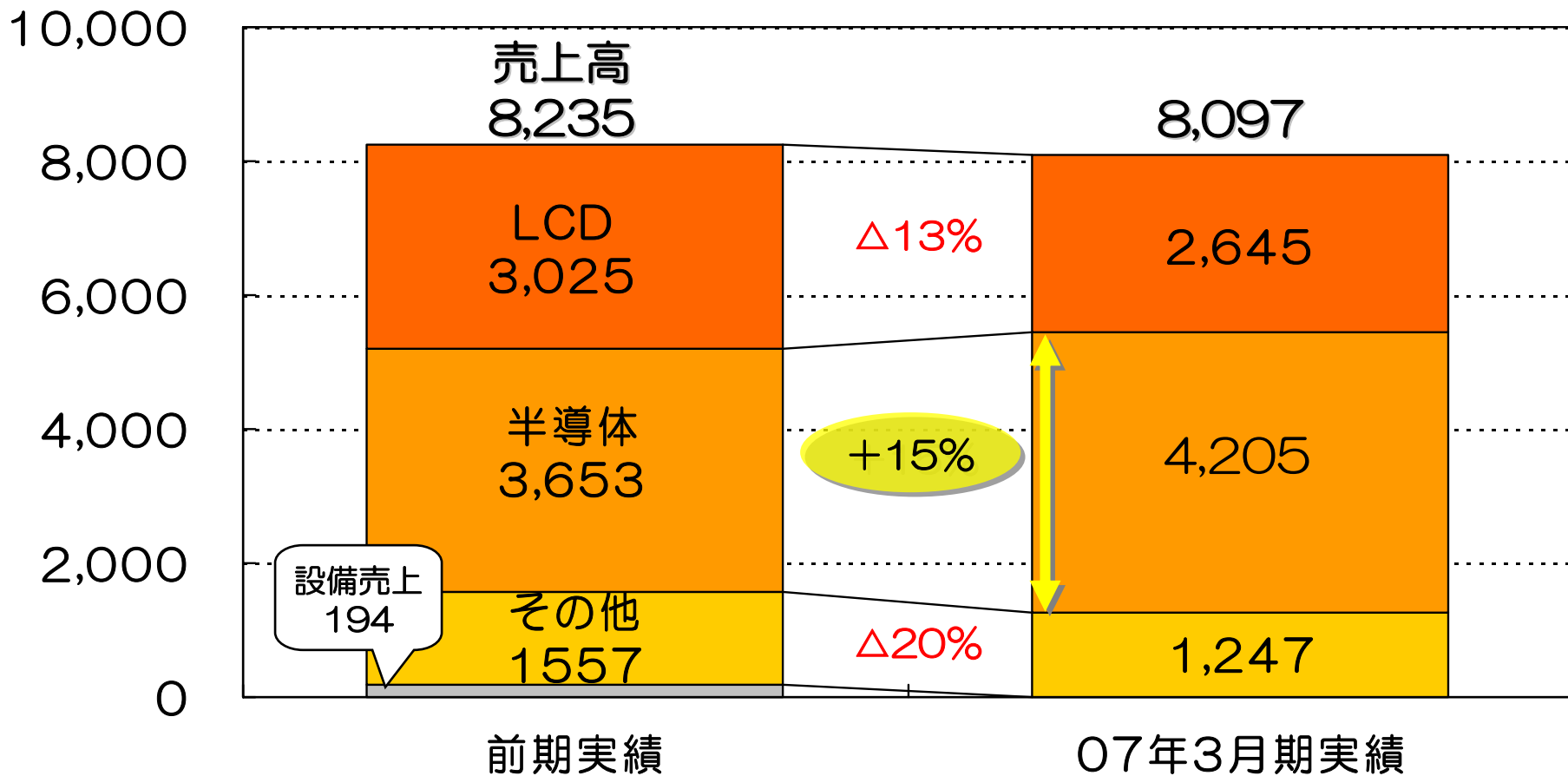
■感光性材料事業 売上高・営業利益

- ・ 売上高は、前年比2%、計画比6%未達
- ・ ただし、前期に設備売上(194百万円)があったため、感光材料単体では前年同等
- ・ LCDパネルの在庫調整が主な要因
- ・ 営業利益は、生産調整と償却費、原材料・燃料費の増加で減益



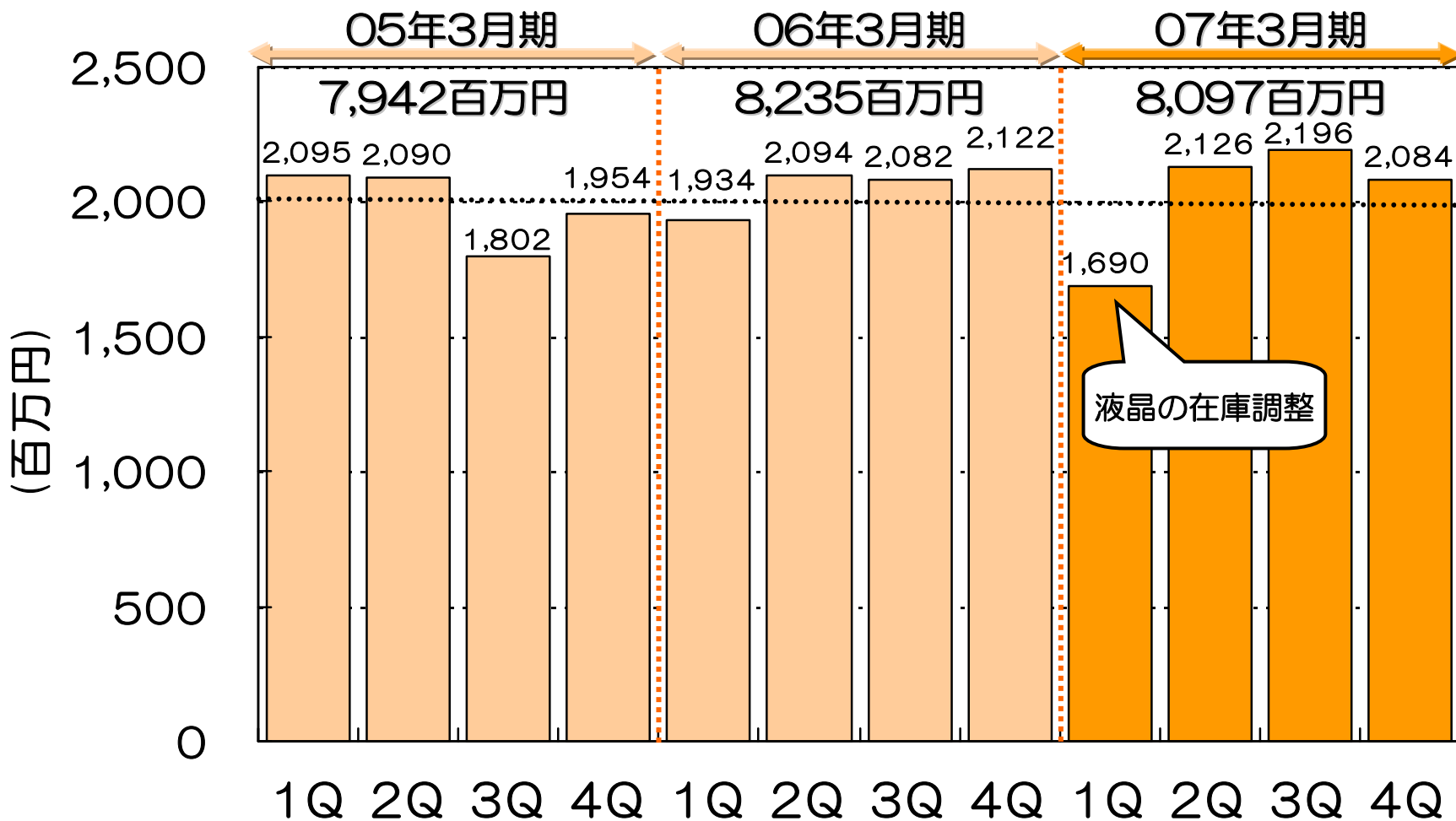
感光性材料事業 用途別売上高

- ・液晶用は、価格下落と在庫調整の影響で13%の減収
- ・半導体用は、15%の増収。需要好調で過去最高
- ・その他は、前期に設備売上などにより、20%の減収



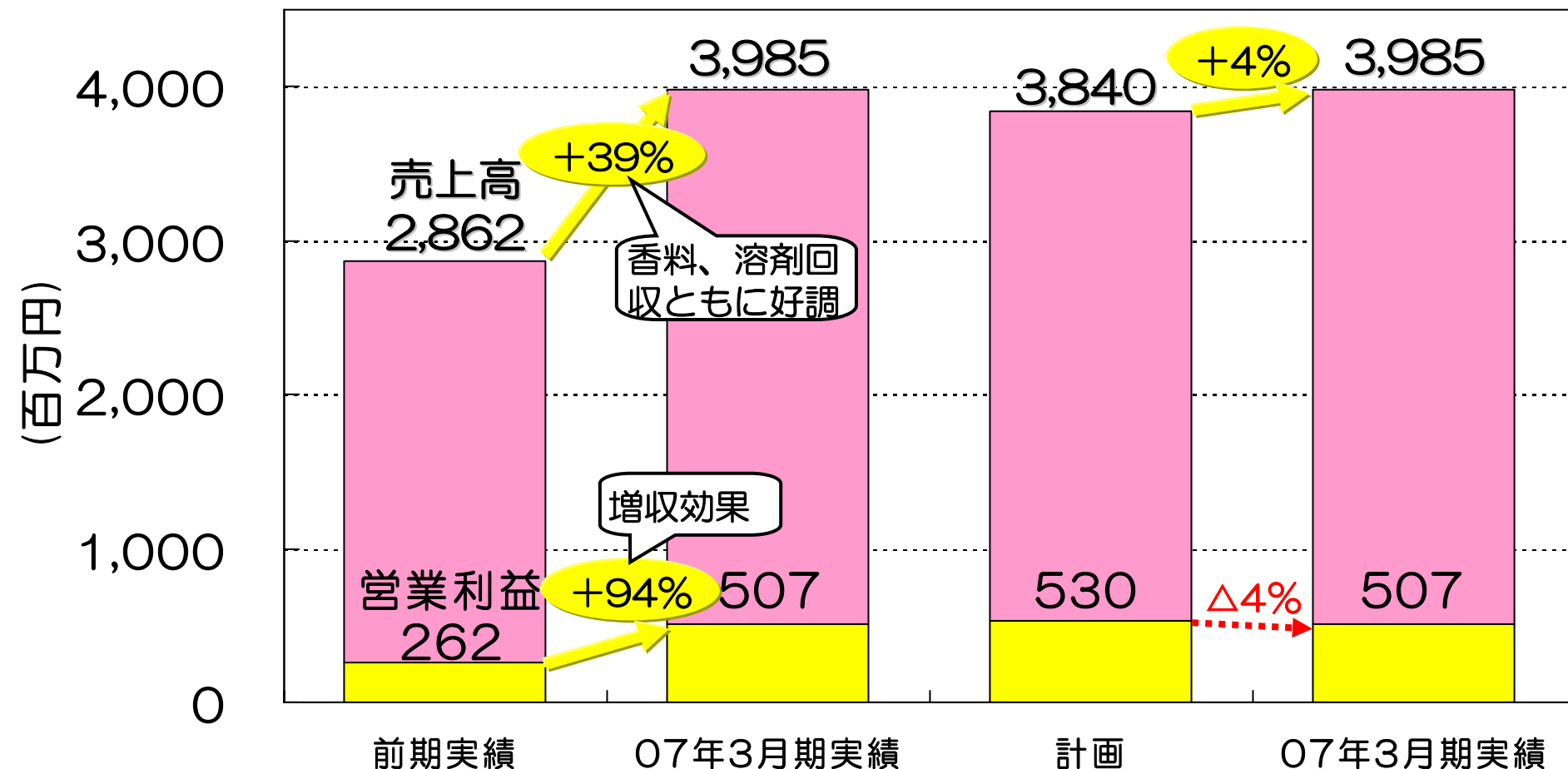
感光性材料事業 過去3年間の売上高推移

- ・ 1Qは、LCDパネルの在庫調整で大きく落ち込む
- ・ 2Q以降は回復したが、4Qの液晶の回復が鈍く、当初見込みを下回る



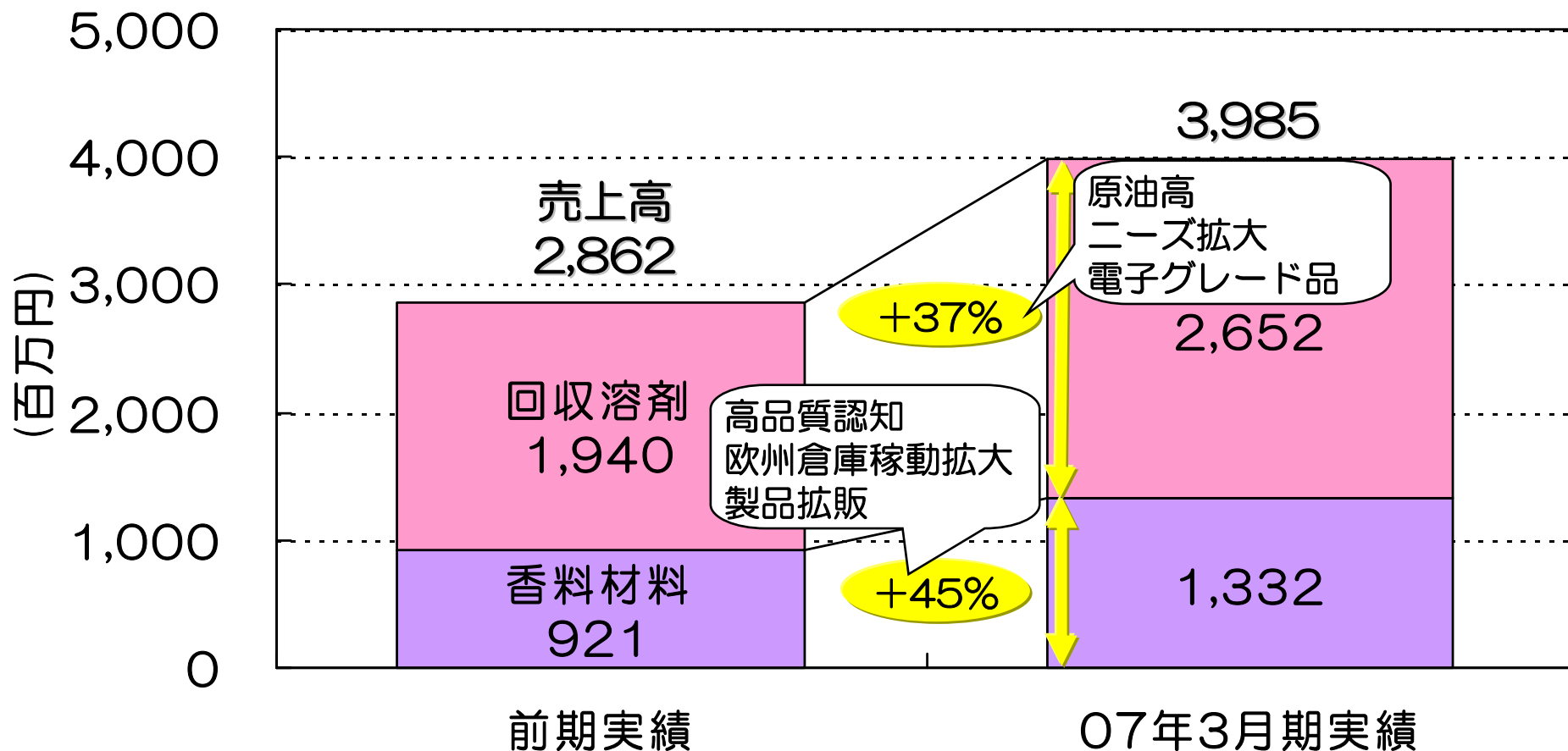
■ 化成品事業 売上高・営業利益

- 売上高は39%増収。中間時に上方修正した計画も上回る
- 営業利益は増収効果で前期比94%増益。500百万円を上回り過去最高



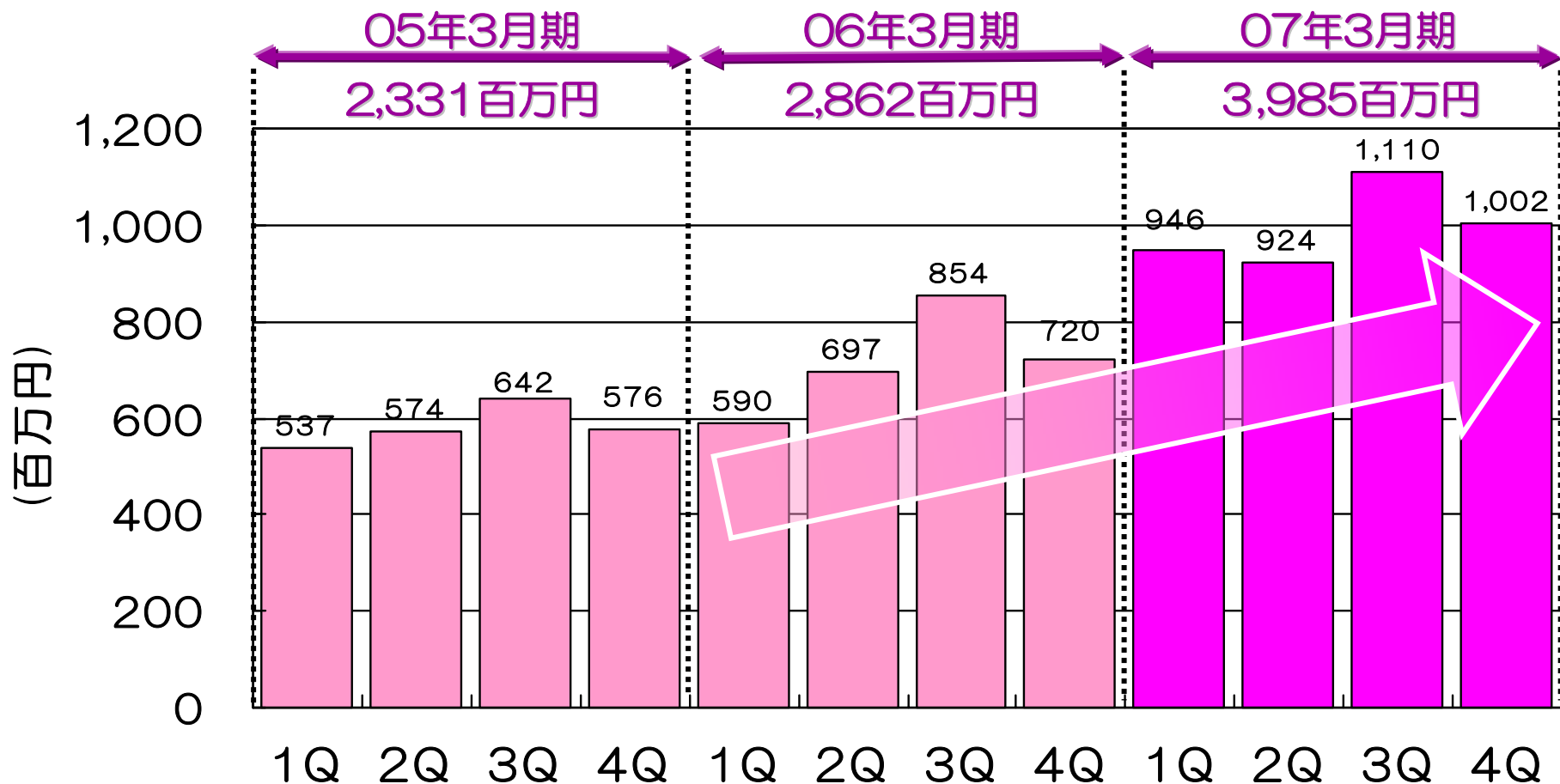
化成品事業 用途別売上高

- ・ 回収溶剤は、原油高による溶剤再生ニーズの高まりと半導体・液晶向けの電子グレード品の取扱い増加などで大幅増収
- ・ 香料は、高品質な製品の認知が進み、欧州を中心に需要が増加



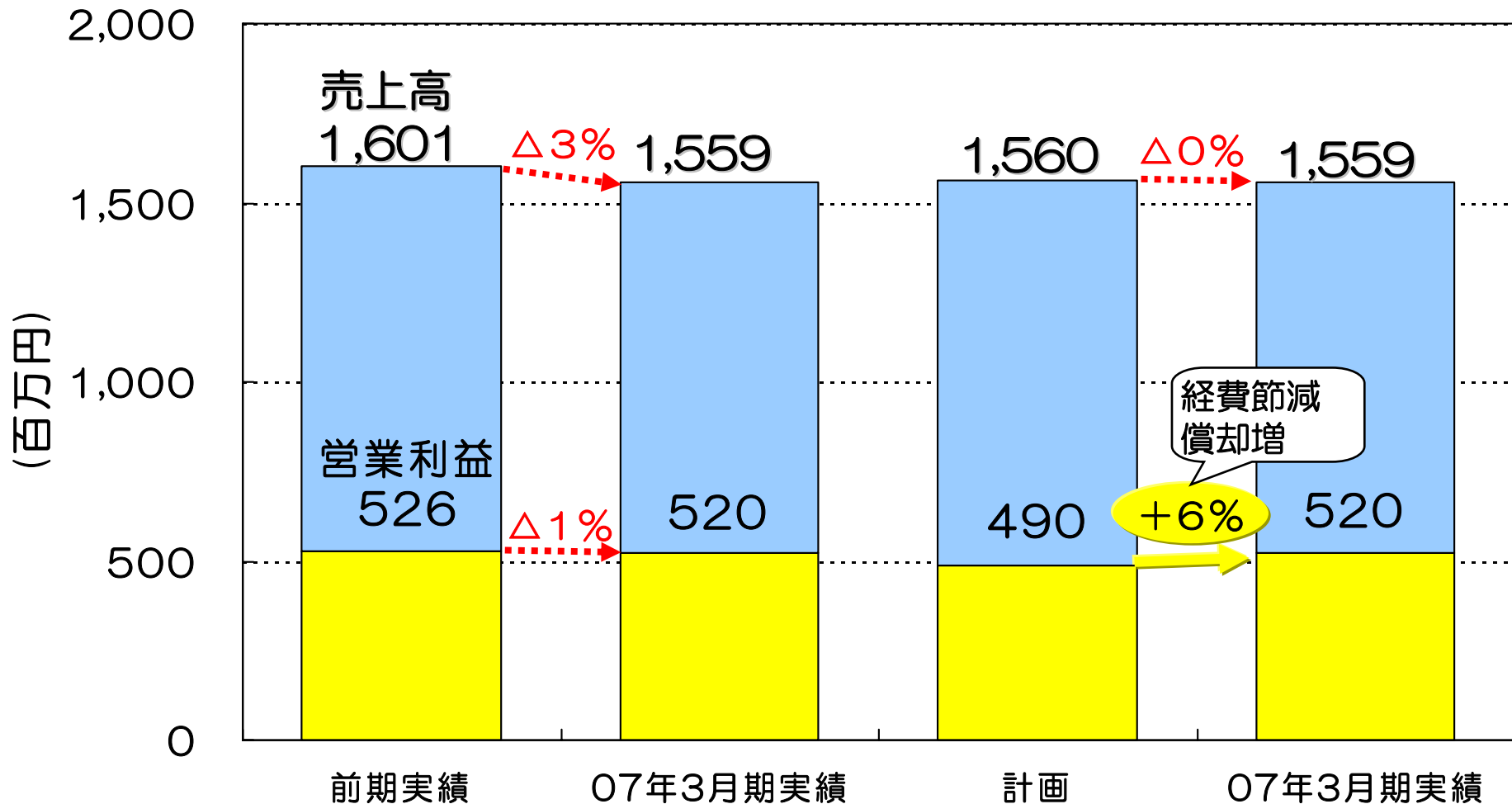
■ 化成品事業 売上高推移

・ 06年3月期半ばから成長。07年3月期は年間を通じて好調



ロジスティック事業 売上高・営業利益

- ・ 売上高は微減であるが、高稼働率続く
- ・ 営業利益は経費削減に努め、計画比では増益



■ 全社 損益計算書

- ・ 売上原価は、減価償却費、原材料費・燃料費等が増加
- ・ 営業外収益は、研究開発に対する補助金収入を計上
- ・ 特別損失は、固定資産除却損を計上

科 目 (百万円)	2006年 3月期	2007年 3月期	対前年比	
			増減額	%
売上高	12,699	13,642	+943	+7%
売上原価	9,671	10,820	+1,148	+12%
売上総利益	3,027	2,821	△ 205	△ 7%
販管費	1,877	1,936	+58	+3%
営業利益	1,149	885	△ 264	△23%
営業外収益	79	137	+58	+74%
営業外費用	249	226	△22	△ 9%
経常利益	979	795	△ 183	△19%
特別利益	27	9	△17	△65%
特別損失	14	149	+134	+958%
税引前当期純利益	992	655	△ 336	△34%
税金費用	350	227	△ 122	△35%
当期純利益	642	428	△ 213	△33%

・原材料高
・償却増
・生産調整
・燃料費増

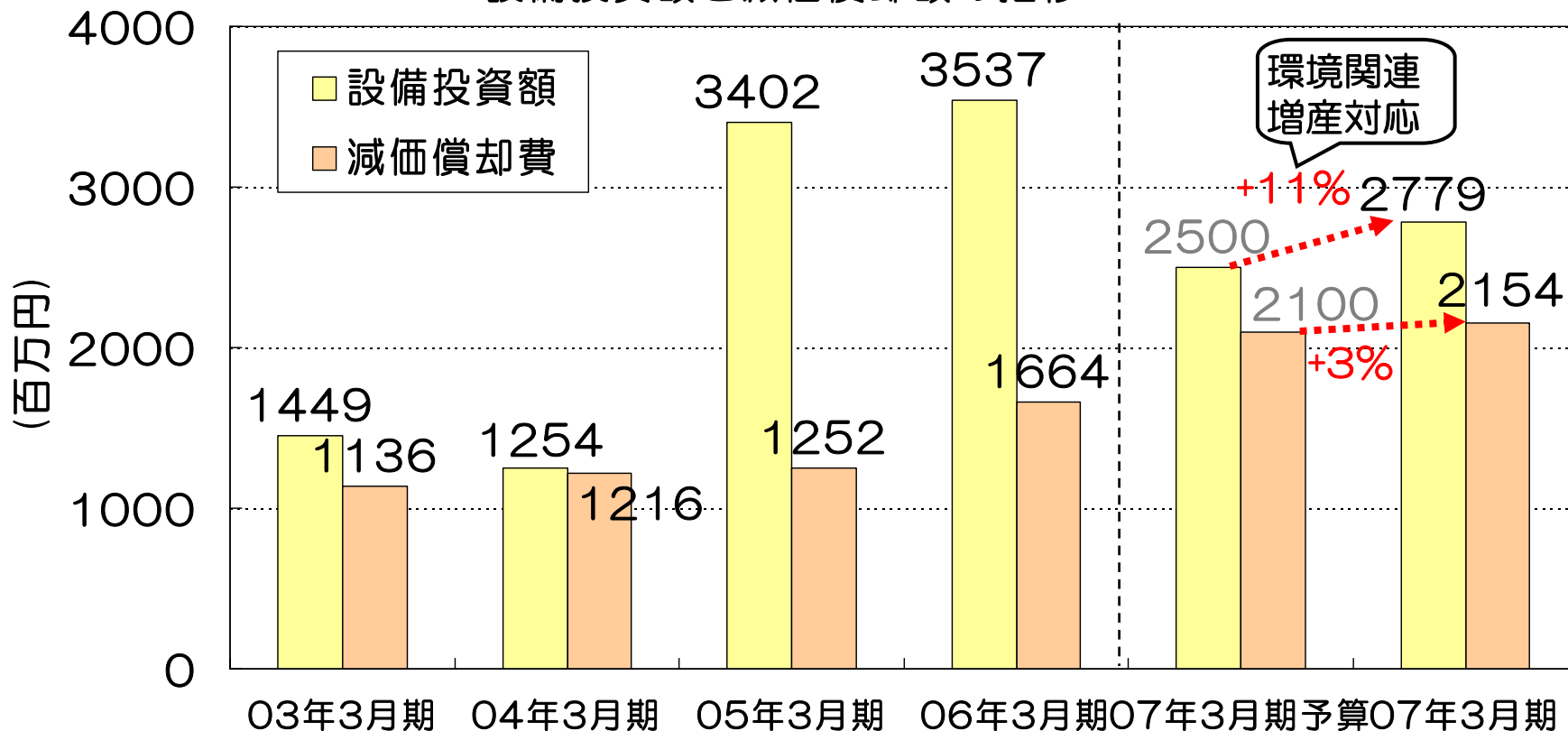
補助金
収入

固定資
産除却
損計上

■ 設備投資と減価償却費の実績

- ・ 2007年3月期の設備投資は、25億円(中間時発表)から28億円弱に増加
- ・ 主要因は環境関連投資と増産対応
- ・ 新規設備稼働(減価償却費計上)は下半期に集中

設備投資額と減価償却額の推移



■ 全社 貸借対照表

- ・ 売上高増加にともない「売上債権」「棚卸資産」が増加
- ・ 設備資金や運転資金増加のため「借入金」が増加

科 目 (百万円)	2006年 3月期	2007年 3月期	対前年比	
			増減額	%
流動資産	9,144	10,347	+1,203	+ 13%
現金預金	1,589	1,491	△ 97	△ 6%
売上債権	2,889	3,225	+ 336	+ 12%
棚卸資産	4,345	5,242	+ 896	+ 21%
その他	319	387	+ 68	+ 21%
固定資産	16,941	17,403	+ 462	+ 3%
有形固定資産	15,801	16,257	+ 456	+ 3%
無形固定資産	158	177	+ 19	+ 13%
投資その他の資産	982	968	△ 13	△ 1%
資産合計	26,085	27,751	+1,665	+ 6%
流動負債	11,616	12,882	+1,265	+ 11%
買掛債務	2,208	2,174	△ 33	△ 2%
短期借入金	6,864	8,383	+1,518	+ 22%
その他	2,543	2,324	△ 219	△ 9%
固定負債	6,242	6,440	+ 197	+ 3%
長期借入金	5,212	5,363	+ 150	+ 3%
その他	1,029	1,077	+ 47	+ 5%
負債合計	17,859	19,322	+1,463	+ 8%
純資産合計	8,226	8,428	+ 202	+ 3%
負債及び純資産合計	26,085	27,751	+1,665	+ 6%

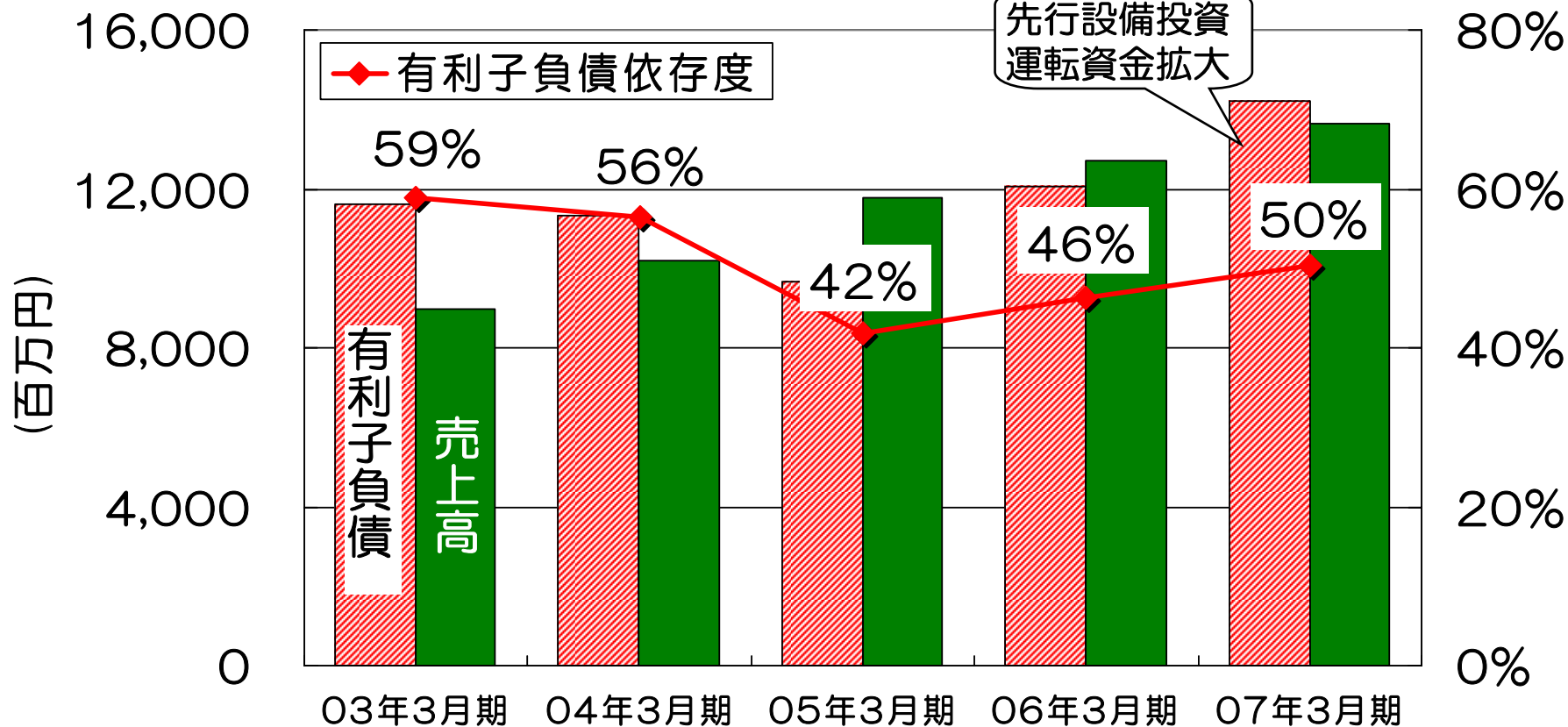
■ 全社 キャッシュフロー計算書

- ・ 「税引前当期純利益」+「減価償却費」は前年比で上回っているものの、「売上債権」「たな卸資産」の増加で「営業キャッシュフロー」は前年比横ばい
- ・ 設備投資資金の支払いを借入金で対応

科 目 (百万円)	2006年 3月期	2007年 3月期
営業活動によるCF	1,562	1,560
税引前当期純利益	992	655
減価償却費	1,664	2,154
売上債権の増減額	△ 126	△ 336
たな卸資産の増減額	△ 539	△ 896
仕入債務の増減額	315	△ 33
その他	△ 743	16
投資活動によるCF	△ 3,402	△ 3,168
財務活動によるCF	2,235	1,511
現金及び現金同等物の増減	398	△ 97
現金及び現金同等物の期末残高	1,066	968

有利子負債比率の推移

- ・ 2007年3月期の有利子負債依存度は50%
- ・ 有利子負債は売上高を上回る
- ・ その要因は、設備投資と運転資金の増加

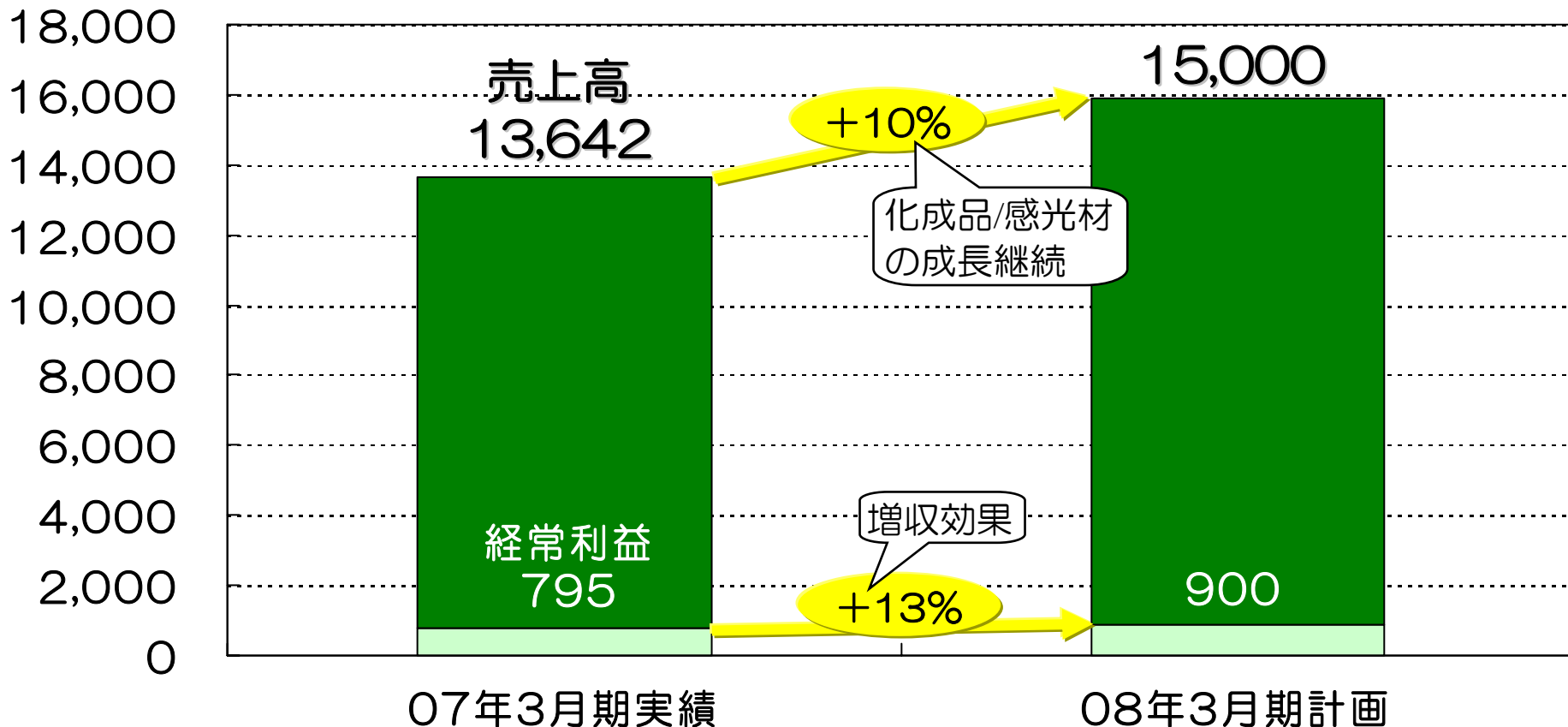


2. 2008年3月期 通期見通し

■ 全社 売上高・経常利益

- ・ 売上高は、10%の増収計画
 - ・ LCD市場の回復など感光性材料事業の成長と化成品事業の成長持続
- ・ 経常利益は、13%の増益計画
 - ・ 固定費は高水準にあるが高止まり、増収効果が寄与し増益

(百万円)



08年3月期 計画

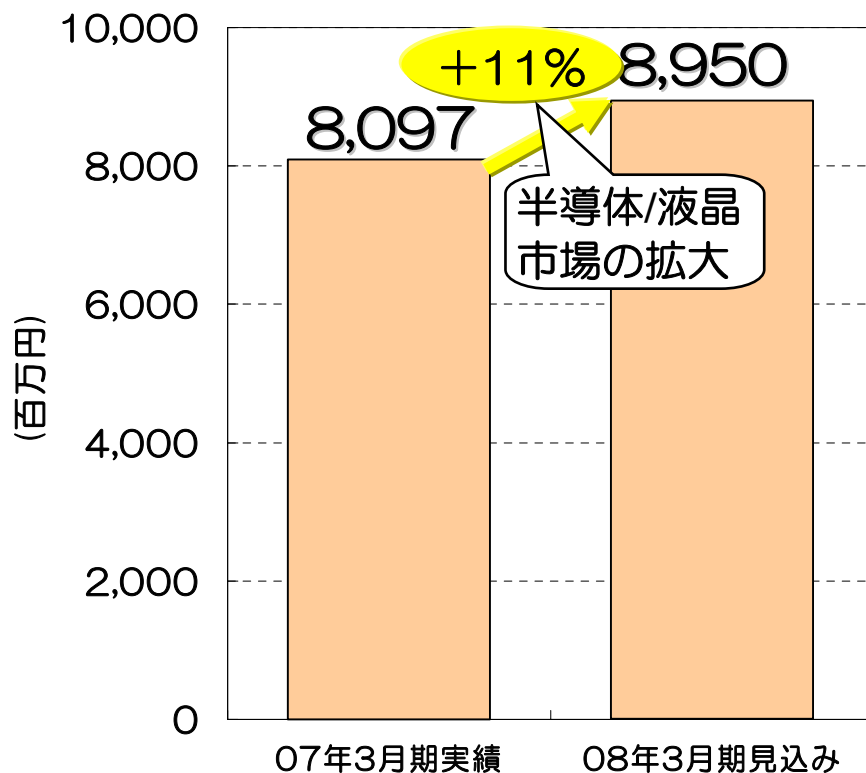
- 売上高は、感光性材料事業の回復と化成品事業の好調持続で10%増収計画
- 営業利益は、固定費等が高水準にあるが増収効果で20%増益を見込む

科目 (百万円)	2007年 3月期 実績	2008年 3月期 計画	増減額	増減率
売上高	13,642	15,000	+1,357	+ 10%
感光性材料	8,097	8,950	+ 852	+ 11%
化成品	3,985	4,400	+ 414	+ 10%
ロジスティック	1,559	1,650	+ 90	+ 6%
営業利益	885	1,060	+ 174	+ 20%
感光性材料	△143	10	+ 153	—
化成品	507	570	+ 62	+ 12%
ロジスティック	520	480	△ 40	△ 8%
経常利益	795	900	+ 104	+ 13%
当期純利益	428	530	+ 101	+ 24%

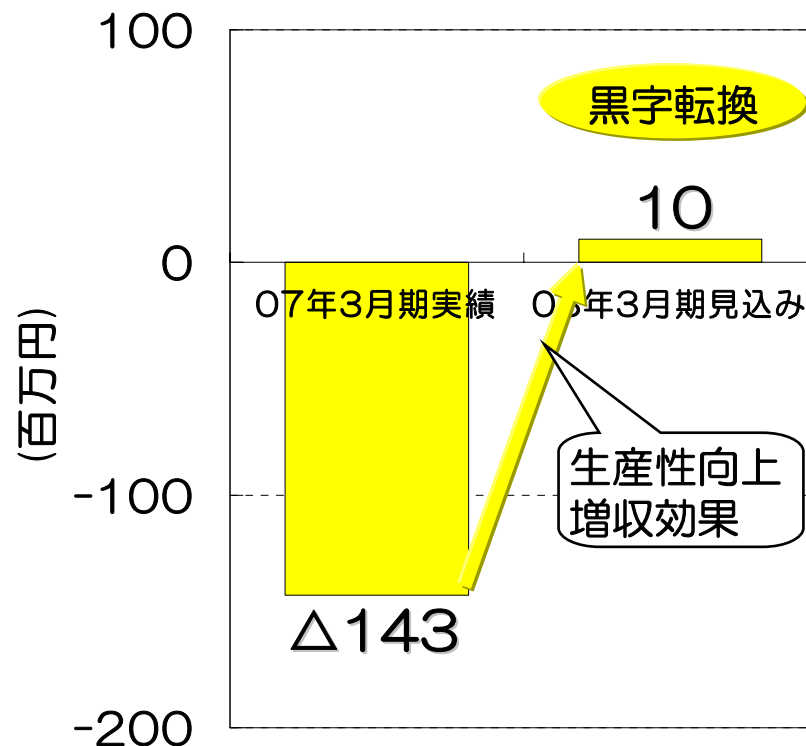
■ 感光性材料事業 計画

- ・ 売上高は、サッカーW杯やオリンピックなどイベント特需はないものの、市場の拡大を見込み、11%増収を計画。
- ・ 営業利益は、固定費等は高水準にあるが、生産性向上に注力し、黒字転換を見込む。

売上高

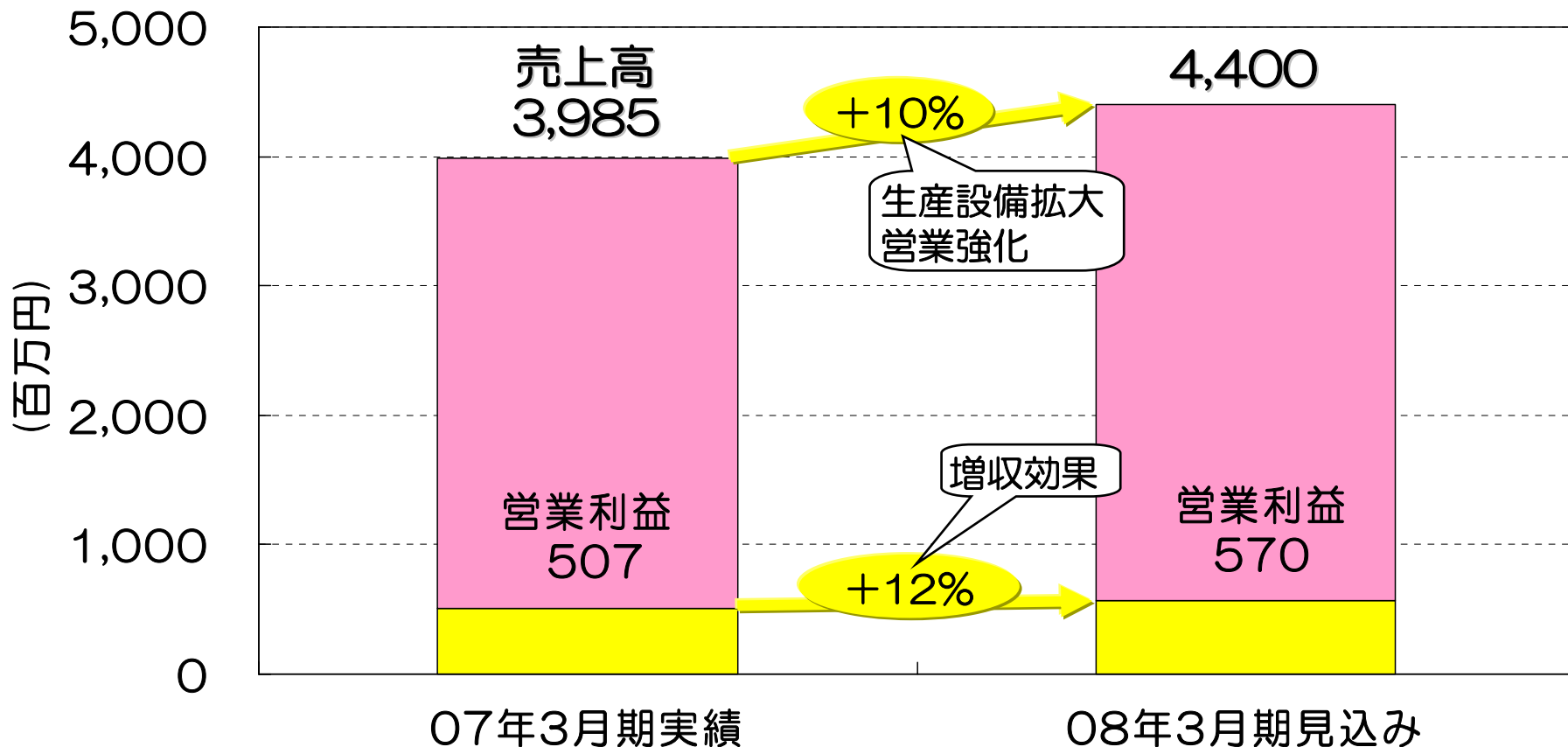


営業利益



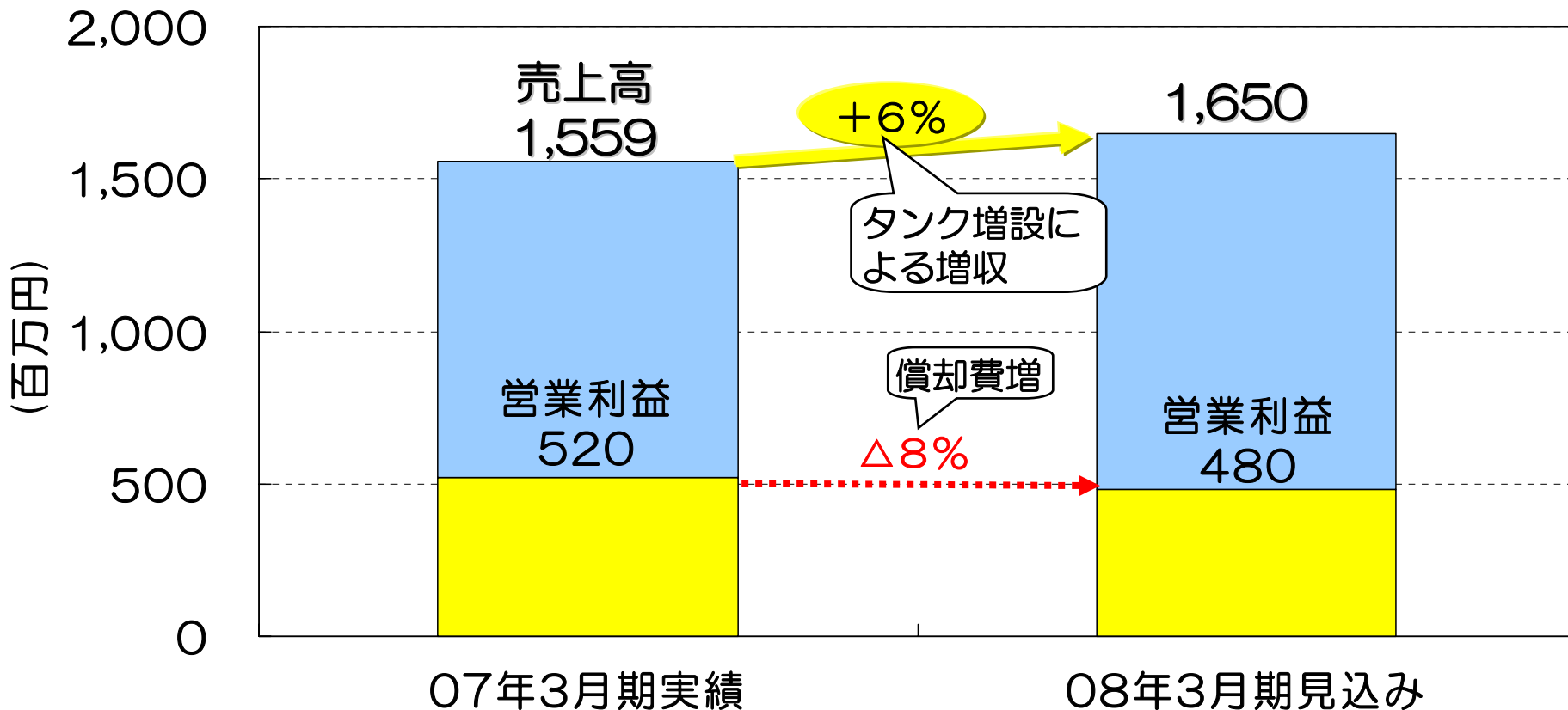
■ 化成品事業 計画

- ・ 売上高は、回収溶剤、香料ともに好調持続。
- ・ タンク6基増設も寄与し、10%増収を計画。
- ・ 営業利益は、増収効果で12%増益を見込む。



ロジスティック事業 計画

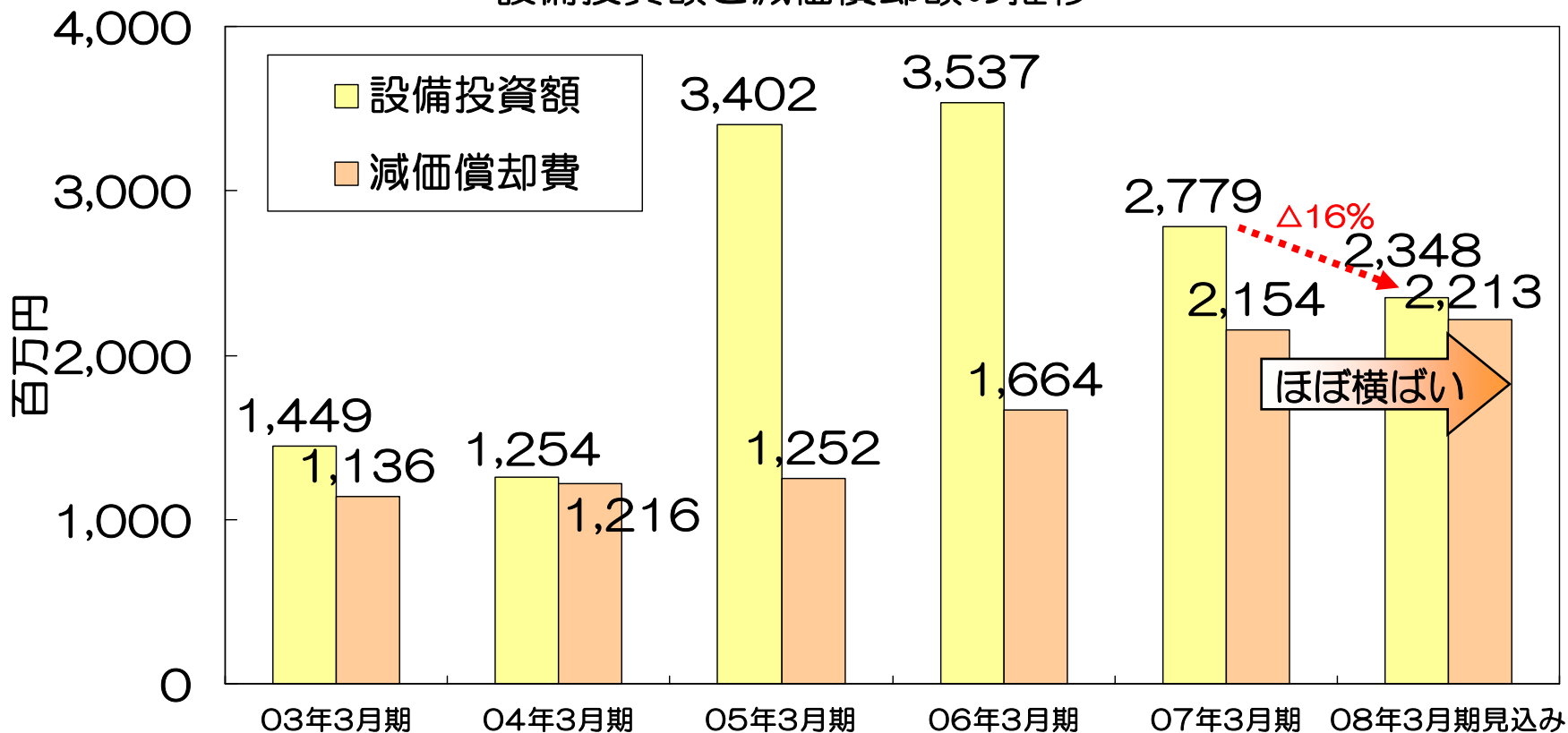
- ・ 売上高は、2007年1月でのタンク4基新設効果で6%増収の計画。
- ・ 営業利益は、タンク新設による減価償却費増加により8%減益見込み。



■ 設備投資と減価償却費の計画

- ・ 2008年3月期の設備投資23億円は減価償却費の同等レベルに抑制
- ・ 2008年3月期の減価償却費は税制改正による増加分もありほぼ横ばい
- ・ 減価償却費は高水準にあるがほぼ高止まり

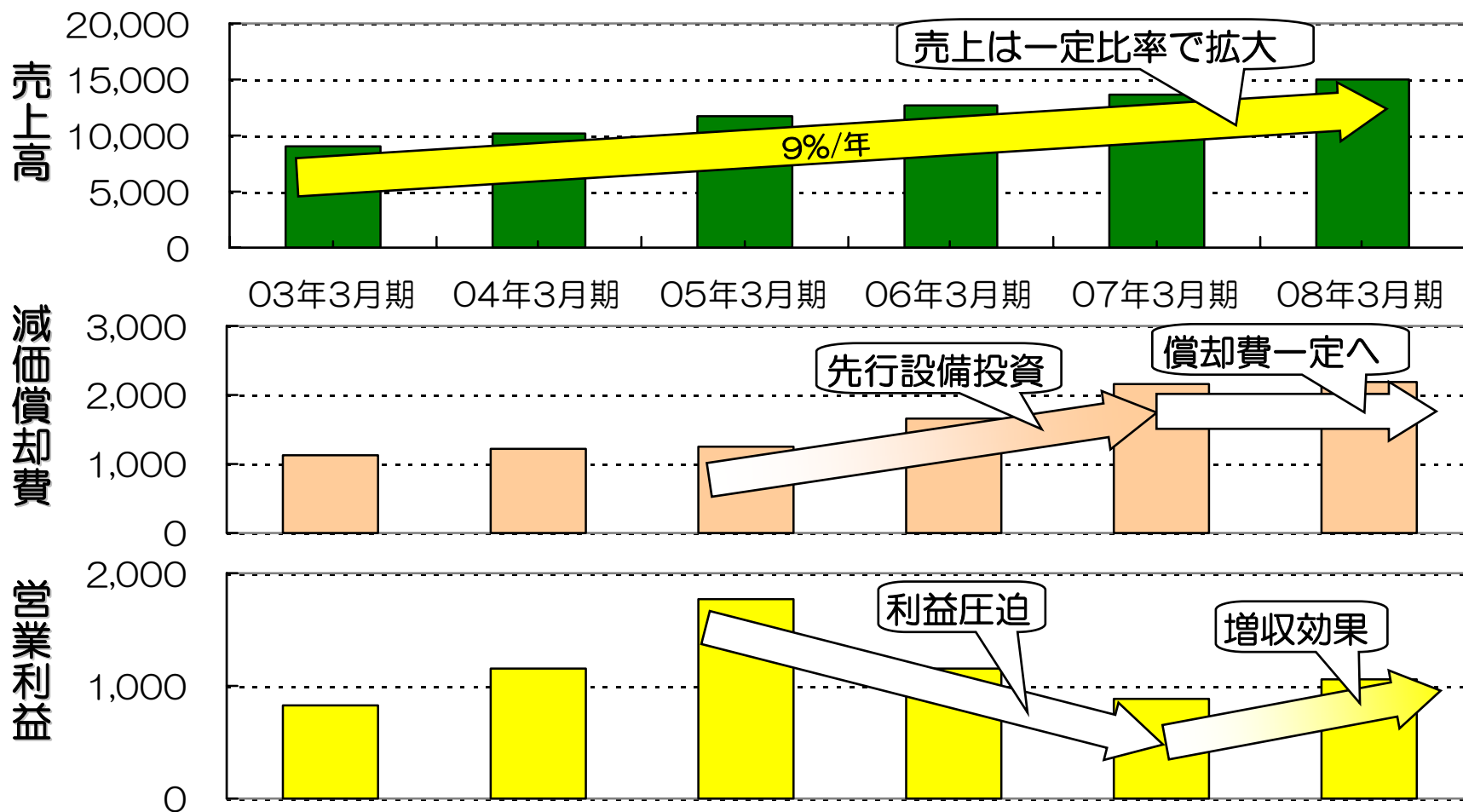
設備投資額と減価償却額の推移



3 . 今後の展望

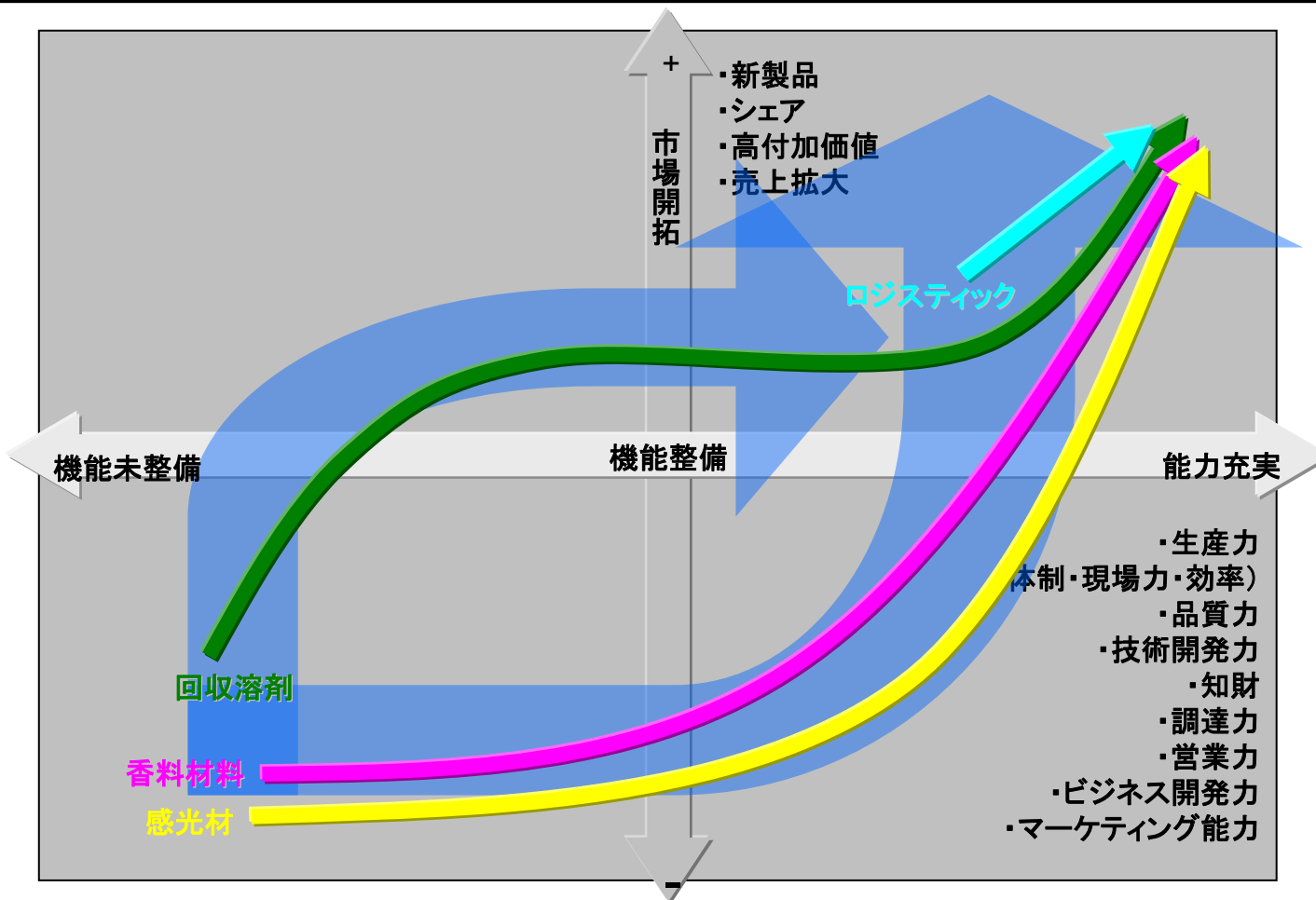
■ 過去5年間の推移と展望

- 売上高は過去5年間で年平均9%の成長を達成
- 営業利益は、設備投資による減価償却費の増加にともない減少
- 今期、償却費は高止まり、増収効果が寄与し利益拡大を計画



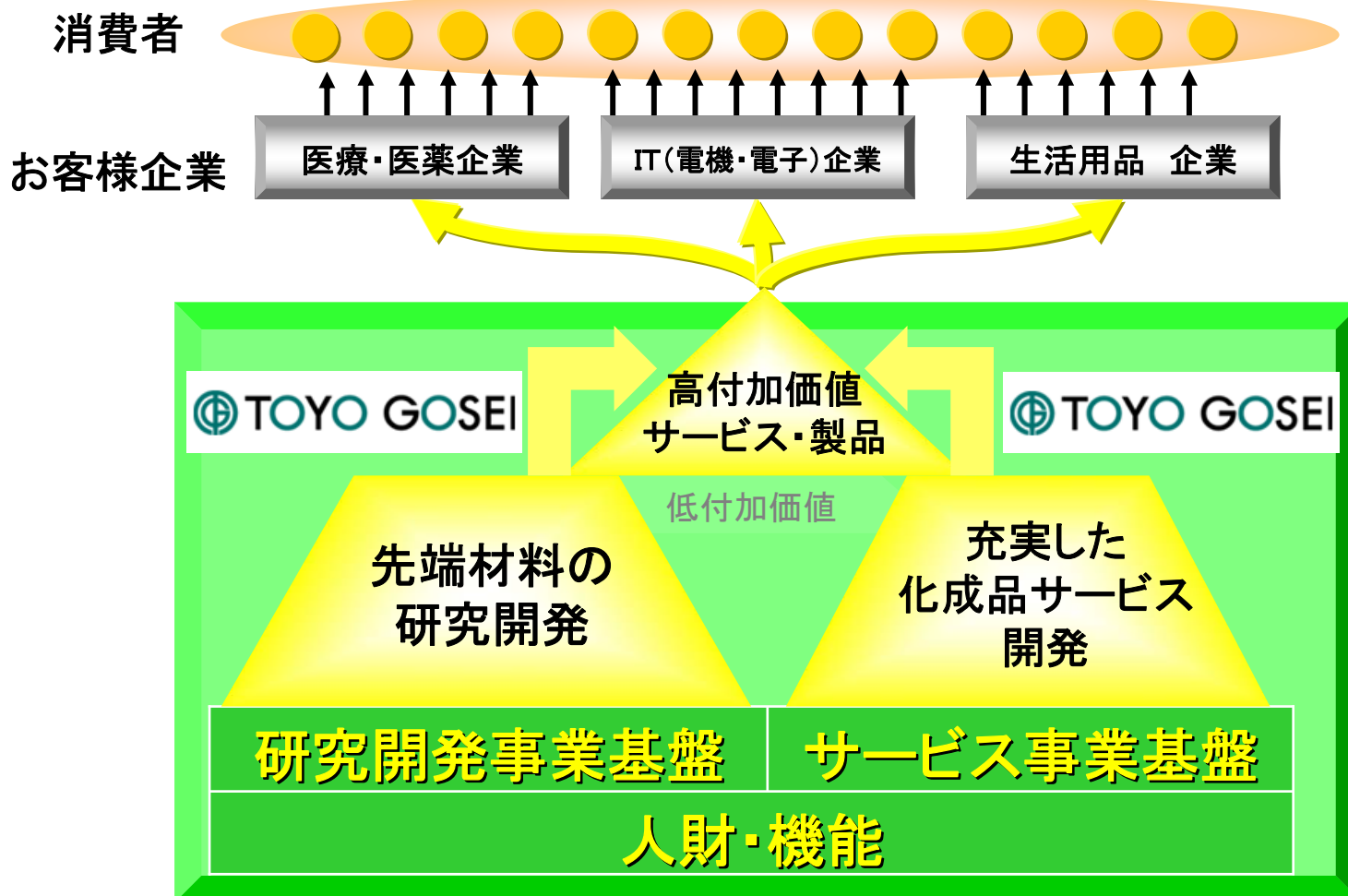
■ 成長シナリオ

- ・ 全社成長シナリオを「市場開拓」と「機能整備」に二分して策定
- ・ 全社のボトルネックの「機能不足」を解消するため、「機能整備」を中期的に実施



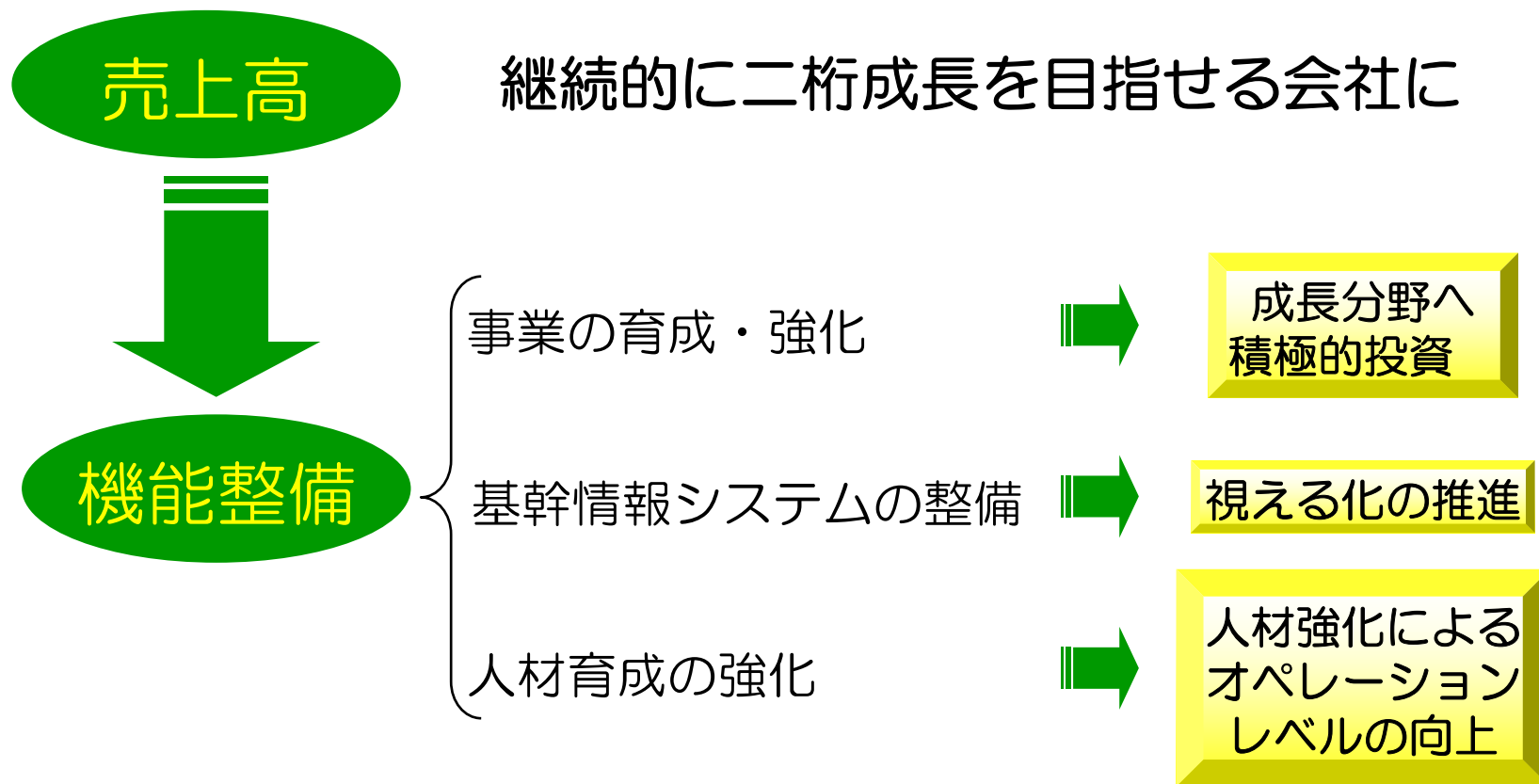
TGCビジョン

- 今後、中期に目指すビジョンを全社で策定



■ 東洋合成の方向性

- 成長の基盤となる機能整備を重視し、成長を持続



感光性材料事業 展望

- ・ 液晶・半導体市場は着実に成長
- ・ 設備投資はほぼ一巡。原価低減と拡販に注力
- ・ 将来へ向け製品開発体制強化

レジスト市場は2008年まで年約10%成長

	液晶用		半導体用					
光源	g線	i線	g線	i線	KrF	ArF	ArF液浸	EUV EB
ノード	～200nm	～100nm	～150nm	～90nm	～65nm	～32nm	45nm～22nm	32nm～16nm
アプリ	液晶テレビ PCモニター コースペックLCD	プロジェクションTV ハイスペックLCDTV 層間絶縁膜	携帯電話 PCB	NANDメモリ ipod	MPU GBメモリ	2コア GBメモリ	4コア Penryn GBメモリ	複数コア TBメモリ フォトマスク
市場	季節要因はあるが、 今後も成長	プロジェクション TVの拡大 LTPS(PDA,カーナビ、 携帯電話)の拡大	緩やかに拡大	延命化	延命化	商業化 延命化	商業化間近	プロトタイプ露光機 販売中 露光機・材料開発中
対策	増産・拡販		生産プロセスの最適化			商業化		研究
	大型テレビ用感光 材の開発 利益管理体制強化	高感度品の開発 一部商業化	生産性向上	生産性向上 高解像度/高感度 化 新開発	高感度化 ポリマ設計	モノマー ポリマー 光酸発生材設計	光酸発生材設計 工程対応	初期化合物開発、 特許7件出願済み 高感度・低LER材料 開発中

エネルギー事業 展望

- ・ 量産品の出荷拡大
- ・ ニーズに応じたきめ細やかな研究開発を加速

電解液・イオン液体

- ・ 継続的営業活動により、電解液・イオン液体の認知度UP(CEATEC、日経CNBCなど)
- ・ 電解液・イオン液体を用いたキャパシタ・Liイオン2次電池の用途は徐々に拡大。
- ・ 商業化フェーズに入ったことから、製品ラインナップ拡大とイオン液体の原価を低減

市場

キャパシタ向け

キャパシタ

- ・ 協業体制から商業化へ

対策

- ・ 量産品販売開始
- ・ キャパシタとしての製品特性優位性を確認

Liイオン
2次電池向け

Li電池

- ・ メタル/有機不純物フリーの安全性/高純度/高品質の需要拡大

対策

- ・ 品質/性能優位性アピール

色素増感型
太陽電池向け

太陽電池市場

- ・ 市場サイズ小
- ・ 技術ハードル高い
- ・ 2008年商業化目指す

対策

- ・ イオン液体開発強化

対策

溶剤回収事業 展望

● 全社の一翼を担う中核事業へ

- 原油高による溶剤コスト圧縮ニーズ
- VOC排出規制など環境関連法規強化
- 電子材料向け金属パーティクル管理された溶剤



溶剤回収ニーズ 急拡大

市場

印刷・粘着業界

印刷・粘着業界
 ● 景気回復
 対策
 ● 業界団体と協力強化

電子材料業界

デジタル機器業界
 ● 電子機器生産拡大
 ● 部材コスト圧縮要請
 対策
 ● 感光材/エネルギーとの協業強化

他製造業

他製造業
 ● VOC規制施行（2006）
 対策
 ● ソリューション提示

対策

- ロジスティックとの協業強化
- 蒸留50年の信頼、立地、技術、コストパフォーマンス
- 回収技術の確立、装置会社との協業強化
- 生産拠点確保（市川工場タンク6基稼動 7月～）

香料材料事業 展望

- ・ 大手香料メーカーに主力製品販売を開始、売上げ拡大
- ・ 事業は着実に拡大

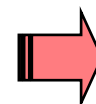
市場

- ・ お客様香料企業（国内・海外）好調
- ・ 低コスト・高付加価値製品が望まれている

国内	海外
<p>国内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協業体制強化 ・ Flavor分野が伸長 <p>対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Fragrance分野を強化 	<p>海外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ BRICs市場拡大 ・ 世界主要香料メーカー ・ Fragrance分野が伸長 <p>対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル企業への拡販強化 ・ Flavor分野を強化

対策

- ・ REACH対応強化
- ・ 製造要素技術の充実
- ・ 新製品開発
- ・ 欧州に続き、グローバル販売チェーンの強化
- ・ 生産キャパシティ確保



市場開拓
価格競争力強化

■ 香料材料事業の海外展開

- ロッテルダム倉庫の稼働拡大
- ヨーロッパの取引先へデリバリーリードタイム短縮(30日→7日)し、RTM経由取引88%増大

～海外出荷実績 (06年度)～

アメリカ

USA、ブラジル、アルゼンチン、メキシコ

欧州

ドイツ、スイス、オランダ、イギリス、スペイン、アイルランド

アジア

シンガポール、日本、中国、インド、インドネシア、フィリピン、オーストラリア

■ ロジスティック事業 展望

- ・ 高付加価値サービスにより売上拡大
- ・ タンク容量増加4000kl/4基により売上拡大

市場

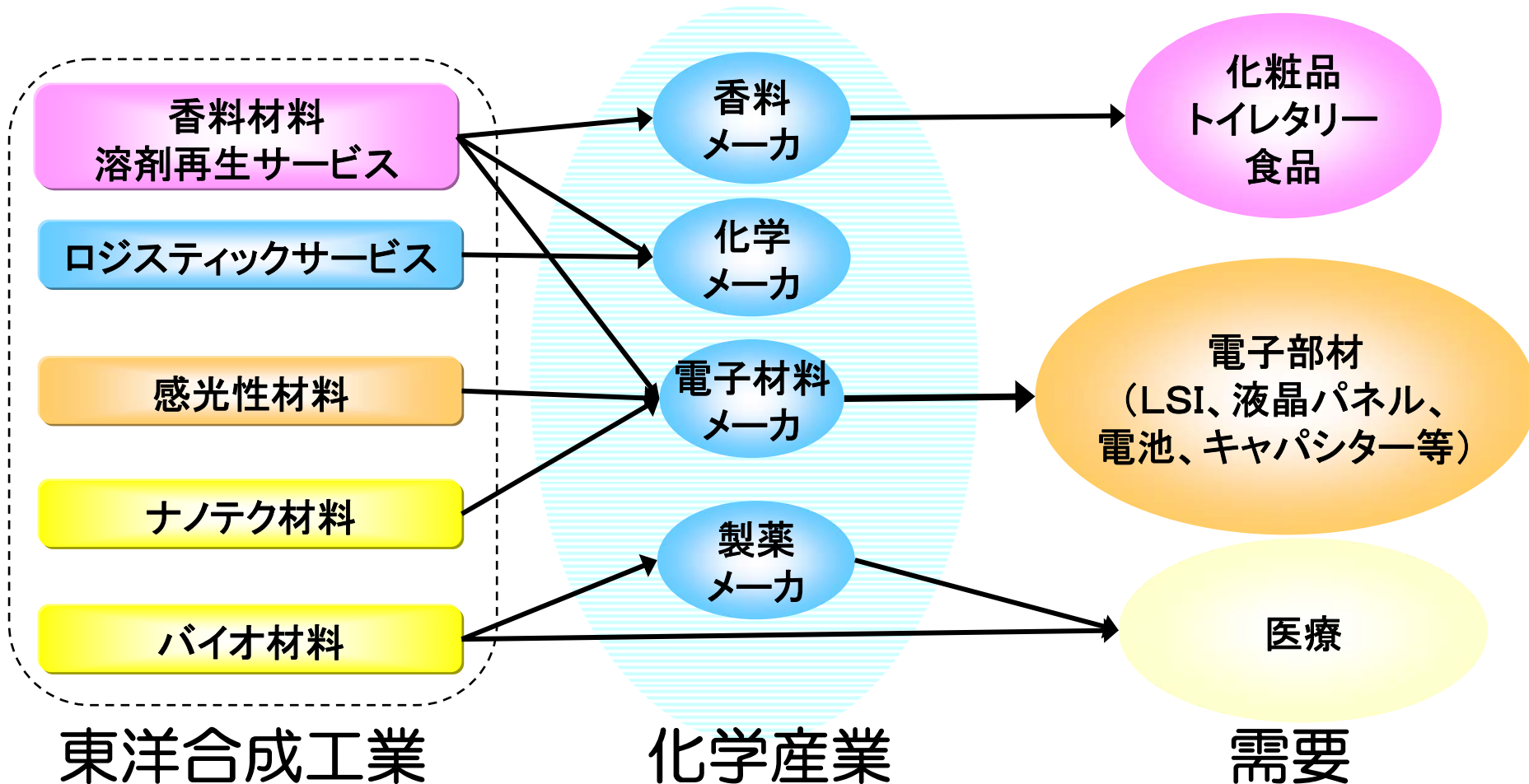
- ・ 需要は引続き好調
- ・ 日本の景気回復→中国品の輸入増加
- ・ 国内外荷動き好調

対策

- ・ 短期的契約でなく、長期契約を志向
- ・ タンク契約率97%
- ・ グリーンケミカル（回収溶剤）との協業強化
- ・ DRP対策（護岸）を実施

■ 新規開発事業

- 化学分野で材料とサービスを核として成長を志向し、新規事業を研究/開発





東洋合成工業

(ご注意)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクによりこの業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。